

## 〈 試 合 規 定 〉

1. 1チームの選手は、11名以上25名以内とする。  
但し、ベンチ入りは20名以下とする。
2. 出場選手は、令和4年度8月末現在連盟への登録済みの中学3年生に限る。  
但し、主催者チームはその限りではない。
3. 審査は、行わないが各チームで連盟の規定を守ること。  
連盟規定以外の役員・指導者・選手の服装並びに野球道具の使用が分かればその地点で没収試合とする。
4. ベンチ入りは、選手・代表(チーム責任者)・監督・コーチ・スコアラーが入ることが出来る。
5. 1塁ベンチ及び3塁ベンチは、組合せ表の指定に従う事。
6. 監督(背番号60)コーチ(背番号50)は、ユニホームを着用すること。
7. 試合開始時間60分前に試合会場に到着し、到着と同時にオーダー表を5部大会本部に提出すること。  
コロナ対策として、会場にて大会参加者全員の検温を実施する。  
また、各チームに於いて、新型コロナウイルス感染症対策当日参加名簿を提出すること。  
さらに、マスクの着用を義務化とする。
8. メンバー表交換時に両キャプテンにより、先攻・後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始前までにチームが会場内に現れないとき、主審は、没収試合を宣言することが出来る。
10. 試合は、7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は、開始から1時間40分を超えた場合、新しいイニングに入らない。
11. 大会の予選リーグでは、勝ち点により決勝トーナメント進出チームを決定する。  
予選リーグは、1時間40分の時間制限とし、同点の場合は、時間内であれば1回の延長を認める。それでも勝敗が決しない場合は、引き分けとする。  
(勝ち1点・引き分け0.4点・負け0点)  
勝ち点の多いチームが決勝トーナメントに進出。  
勝ち点と同じ場合  
① 失点の少ないチーム ② 得点の多いチーム ③ 直接対決の勝者の順で順位を決定する。  
決勝トーナメントでは、7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長8回決勝戦は10回あるいは、試合開始から1時間40分、決勝戦は2時間を超えて(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。
12. 4回終了時10点差、5回以降7点差の場合及び日没をコールドゲームとする。

13. 雨天等により試合続行が不可能と大会本部が判断をした場合の勝敗の決定。  
最終回時点で出場したメンバー全員の抽選とする。
14. (1) 1日最大80球とし、連続する2日間で120球以内とする。  
連続する2日間で80球を超えた場合は3日目は投球を禁止する。また3連投(連続する3日間)する場合は1日40球以内とし、4連投(連続する4日間)は禁止とする。  
(2) 大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可とする。  
(3) (1)~(2)を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。  
(4) 制限数を超過した球数は投球にカウントしない。  
(5) 連続する2日間で80球を超えた投手、並びに3連投した投手は、翌日の捕手としても出場できない。  
(6) ボークは投球数としない。  
(7) 雨などノーゲームになった場合は投球にカウントする。  
(8) ダブルヘッダーの場合は2試合に登板した場合は連続2日間投球した事とする。  
また1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。
15. 攻守で監督及びコーチの指示・伝達は1試合で各2回の計4回を限度とする。  
延長に入った場合は、1回の指示伝達を認める。(選手の怪我や、選手交代などは回数をカウントしない。)  
守備側の投手に対する指示・伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となりその投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板する事は出来ない。  
内野手(捕手を含む)が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。  
また、指示・伝達は審判がタイムを宣言してから「30秒以内」とする。
16. 監督・コーチ及び選手は、審判のジャッジに対して、抗議することを厳禁とする。  
ただし、規則上の疑義の申し出については、必ず監督または問題の当事者のみが審判に説明を求めることができる。この場合「3分以内」に規制する。
17. 監督が選手にアドバイスする時は、投手マウンドで行うこと。(駆け足で迅速に)
18. 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
19. ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
20. 投手は、走者をアウトにする意思がないのに、無用のけん制球を繰り返すとかまたは送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
21. ヘルメットを1チーム7個以上、捕手の規定防具2組完全なものを備えること。

(各チーム持参すること)

22. ユニホーム・バット・スパイク・グラブ投手は、連盟指定業者のものに限る。
23. 捕手は、必ずヘルメット並びに規定防具を試合及び練習を問わず着用すること。
24. グラウンドの都合等で大会規定がべつに制定された場合はそれに従う
25. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
26. シートノックは行わず、サイドノックとする。

## 《タイブレーク実施細則》

### (1) 特別規則

- (イ) 延長 8 回あるいは試合開始から 1 時間 40 分を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は 10 回あるいは 2 時間を超えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
  - (ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
  - (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- (二) この場合の代打および代走は認められる。

### (2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

#### (イ) 投手記録

- ・ 規定により出塁した 3 走者は、とうしゅの自責点とはしない。
- ・ 完全試合は認めない。
- ・ 無安打、無得点試合は認める。

#### (ロ) 打撃成績

- ・ 規定により出塁した 3 走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
- ・ 規定により出塁した 3 走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。